MACHIDA JC Press

2007年(平成19)3月号

JCI Junior Chamber International Machida
Worldwide Federation of Young Leaders and Entrepreneurs

MACHIDA JUNIOR CHAMBER 40th Anniversary

2007年度 町田JCスローガン

創始の「魂(こころ)」を今ここに

～己を拓き扉を拓き いざ、道を拓かん～

社団法人町田青年会議所(町田ＪＣ)は、我々の郷土、町田市の将来のあるべき姿を真剣に考え、その理想像に向かって邁進します。次代の担い手としての責任を自覚する青年(20歳～40歳)が集い社会発展のために運動を繰り広げております。

「理事長対談」

町田市長　石阪 丈一氏

「教育」職場体験を通じて

川島理事長：(以下　川島)
　本日の対談では「教育」をテーマに話しを進めて参りたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いします。教育というと、町田市では今年も「キャリア教育」の一貫である中学生の職場体験の本年度３回目が始まりました。町田市の教育委員会は先日、文部科学大臣賞を受賞され、堺中学も学校部門で同賞を受賞されましたね。我々としても非常に喜ばしく思います。今回の職場体験にも、町田市役所ではかなりの人数を受け入れるのでしょうか。

石阪市長：(以下　石阪)
　市の施設や保育所に来て頂いていますよ。中学生にとって職場体験は新鮮なのではないでしょうか。大体、自分の親が働いている姿を会社に見に行くということはあまりないですし、「働く」ということがどんなことなのか分からないですよね。そういう意味では職場体験というは良いのではないでしょうか。

社団法人町田青年会議所
第40代理事長
川島敏徳

川島：私の商売は業務用の酒販業ですが、中学生の職場体験では４名を受け入れさせていただきました。社員やアルバイトには、商いに携わる人間として、例えば「明るく元気な挨拶」だったり、当たり前の道徳として「お客様への感謝の気持ち」を中学生に示してほしいと伝えました。

石阪：自分が会社に入った時のイメージを作るには、実体験が一番分かり易いですよね。どういった仕事に就くのかということは中学生の時はまだ分からないだろうし、今はほとんど進学を前提に高校に行くから、どこの高校に行くのかということ位しか頭にないので、その先は考えていないかもしれないけど、それでもやはり、将来自分がどういう職業に就くのかを、イメージしているのといないのでは違いますからね。

町田市長
石阪丈一氏

川島：５日間のカリキュラムである職場体験は、今年で２年目ですが、今どのような問題があるのでしょうか？ただ単に仕事を覚えるだけが「キャリア教育」とも思えませんし、これから社会に出る子供達にとって必ず必要になる「人間力」を教育することが大事だと思っています。また、会社側の社会貢献であるならば、会社は子供達の為に何をしてあげられるのか？そして、商いとはどういうものなのか？を伝えない限り、時間を殺しているだけになってしまいます。そういった、子供達に本当に伝えるべき部分を教育委員会、行政として訴えかけていただきたいと私は思っています。

石阪：子供達には「お客様の為に自分達は仕事をしている」ということを体験してもらいたいですし、企業にはそのように指導していただきたいですね。やはり、お客様中心で商売が成り立っている訳ですから。市役所に来た時も、お客様中心の接客をするよう子供達に伝えています。それを職員にもきちっと言わなければいけないですから、大変ですよ。中学生が変なことを学んでしまうということですから、それは緊張してもらわないといけないですよね。あそこに行ったらダラダラしていたということになれば、それは最悪の教育になってしまいますからね。

親から見る子供と、子供から見る親の姿

川島：日本全国で親が子を子が親を殺害するという、目を覆うような事件が蔓延る社会になってしまっています。町田市でもそういった類の事件があったということで、行政側はどのような考えを持たれているのでしょうか？

石阪：子育てについては、お父さんの働き方の問題がかなり大きいと思います。父親が不在で母親だけだと結構きついところがありますよね。それには働き方を変えることが実は必要です。残業時間を規制しても、その人のマイナスにならないようにするとか、そうい

発行所 社団法人町田青年会議所 編集 広報情報委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067

ったことを制度化している企業に対して税制上で優遇するとか、何かそういうものを国なり市町村の制度で対応していくべきでしょう。両親というのは一種の規制要素ですからね。子供が両方の親と毎日顔を見合わせて、両方を無視して行動することは難しいと思います。両親の規制の目が届かなければどんどん野放しになってしまう。精神的にも野放しになってしまう訳です。そういう意味で、子供がいる時間帯に親がいるようにしないといけない。あと、地域として何か支えるような仕組みを考えていく必要もありますね。

川島：当然、父親も生活の為に働く訳ですが、ただ、そのバランスが「拝金主義」や「刹那主義」といわれるような、自己的な主義に走りがちで、精神的な豊かさが無くなってきている。だからこそ、子供達は社会に携わることを忘れ、塾に通っていれば未来は約束される、ゲームやインターネットに夢中になる、コアな仲間だけで遊んでいる、そういった内向きの方向にシフトされている。であるからこそ、私達は外にも目を向けてもらえる様、親子の絆、親子愛、そういったものを感じ取れるような事業を行なっていきたいと思っています。

石阪：町田市独自の成人式として「20歳町田」というのがありますが、自分達で全部企画して自分達で出る人も全部決めてやるでしょう。あれは結構面白いですよね。役所はお金だけ出して勝手にどうぞという世界だから、あれは実行委員会の人達は結構楽しくやっていますね。地域のお祭りでも、お金を渡して５万円なら５万円、３万円なら３万円渡して企画してやってくださいという風にやると、自分が主人公になりますから、そういうことができればずいぶん違うと思いますね。それはゲームよりきっと満足感がある。ゲームの方が楽しいかもしれないけど、満足感はこっちのほうがずっとあると思いますよ。「今回の神社の節分の催しはここの中学生がやりました」ということになる訳ですから。やっぱりメインは中学生で、中学生が下の子供達を教育するような、そういう仕組みができればと思います。色々な場面があるでしょう。掃除をさせるのも、草刈をさせるのも、何をさせるでも良いと思いますが、とにかく皆で協働して一緒に何かやろうという様に、そういう所で主役にするっていう教育、それが本当は教育だと思いますね。誰かの為に役に立とうというところがないと駄目ですね。今は自分の為だけという世界ですから、それをやらせるのが一番良いのではないでしょうか。

川島：大人、親が子供のことを見る目を、また逆からの目をどの様に感じておられますか。

石阪：子供は自分が大人だと思っていて、大人は子供だと思っている。親は自分の子供だから親の自由になるし、親がどうしても良いと考えてしまう。本当はそうではなくて、一つの人格で自立した人間だから、親の操作でどうなるというものではないでしょう。そこが多分、段々親の楽しみとか、親のおもちゃとか、ファションみたいになってきているのではないかと思います。例えば、私は古い人間だから、子供の着る物といえば、お下がりをいただくとか、とにかく何とか着るものを調達するという考え方ですよね。今は子供にブランド物を着せるとか考えますよね。私はとにかく動き易いもので、そんなに汚れていなければ良いと思いますね。ブランドというのは、当時は大人の着る物にはあったけど、子供の着る物にはなかった。しかし、今は子供の着る物までブランド化していて、私の感覚ではちょっと追いついていけない感じはしますね。

川島：子供達から見た大人の格好良さや、親を尊敬する眼差しなどは、先にも申し上げましたが「拝金主義」といわれる思考から、着る物・身に付ける物にいきがちです。私の考えですが、親のあるべき姿とすれば「頑固おやじ」といわれるような人道をしっかり導けるような大人が教育をしているところに「尊敬」が生まれる社会になってもらいたいですね。子供たちが大人になった時、うちの親父は「男らしくて格好良かった」と言われる様に。

石阪：ファションじゃなくて、行動や規範とかルールを守るのは大事ですね。私には子供が３人いるのですが、子供がまだ小学生に上がっていない頃、電車に乗るとガラガラに座席が空いていても立たせていました。「子供達は元気だから立って、大人達は仕事してくたびれているから座る。」と説明すると小さい子供でも分かります。そうすると、電車に乗ると必ず立つように訓練される。それが当たり前だと思うようになるのです。そういった躾が大事だと思いますね。

川島：今の子供達は言い訳する子供たちが多いですね。学校問題でいじめの問題がありますが、いじめがどうしていけないのか聞く以前に、言い訳なしに、理由なしに、駄目なものは駄目だと徹底的に教え込まないといけませんね。

石阪：小さいうちに根本のルールを教えれば、その後を教える必要はないのですよ。つまり、そういった根本のルールなどは、子供が右か左か考える余裕などないうちに叩き込めば良いのです。子供に考えさせる必要はないのですよ。そんなところで議論を許していると、どうして殺してはいけないのかとか、馬鹿な質問してくる人が出てきますからね。そんなことは理由云々以前の問題ですから。そういった事だと思いますね。

川島：最後になります。地方分権が進む中、本当に地域力をつけていかないといけません。教育も然りです。今後とも町田ＪＣとしては「市民と行政のパイプ役」として、そして本物の公益団体として頑張って参りたいと思います。最後に市長からＪＣメンバーにエールをいただけますか。

石阪：町田市は来年で50周年を迎えます。若い人、あるいは民間企業の人にはかなりの役割を果たして頂くことになると思います。そういった際のコーディネータ役には、ＪＣが一番ぴったりなのかなと思っています。50周年の企画とか、色々なところでご協力をお願いしたいと思っておりますので、今後とも、よろしくお願いします。

川島：我々も愛する郷土、町田の為ならば一生懸命に頑張ります。本日はありがとうございました。

●全文はhttp://www.machida-jc.com/に掲載
●理事長ブログ絶好調！今すぐアクセス！！

発行所 社団法人町田青年会議所 編集 広報情報委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067

「歴代に聞く」

設立40周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。顧みますれば設立当時における市域は都心のベットタウンとして開発され、造成区画された土地には近代的住宅が立ち並び、切り拓かれた丘の上には高層住宅が近代都市のサンプルのように建設され、首都圏整備の「中核都市」として人口増加率全国第一位という息吹く激動期でした。市域の将来に対処せんとするメンバーが、自己研鑽と指導力育成のため、東京・立川・八王子の各ＪＣをスポンサーとする先輩ＪＣのご指導とご支援を得て、町田ＪＣを設立しました。以来、若人としての英知と勇気と情熱を得て、明るい豊かな社会を築くため、若さ漲る一致団結した実行力をもって、地域社会の開発に或いは善意溢れる諸事業を行い今日に至りました。今後も英知を終結し、地域社会のために尽力されますことをお願いすると共に、益々の隆盛発展を祈念し、設立40周年に寄せる次第です。

初代理事長　森山　兼光

「ぼくのわたしのゆめのまち」

小学１年生（７歳）　木目田　俊　作

俊君ありがとう。
こんな素敵な「まち」になるといいね。

ASV PESCADOLA MACHIDA
（エーエスブイ・ペスカドーラ町田）

１月24日、町田市民ホールにてプロフットサルチーム旧名カスカヴェウが、プレス向け記者発表会を行いました。地域の支援団体として町田ＪＣより川島理事長も参加いたしました。来期より「ＡＳＶ ペスカドーラ町田」（呼称：ペスカドーラ町田）として日本フットルリーグに参入します。只今地域のスポンサーを募集中です。また、日本フットサルリーグの愛称も「Ｆリーグ」と決定しました。

（http://www.cascaveltokyo.com/xoops2/）

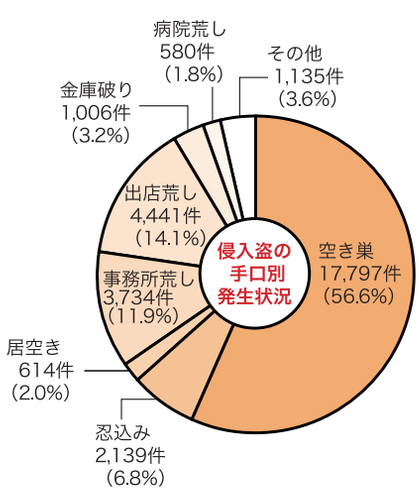
「防犯対策豆知識」

最近の空き巣の手口と対抗策
～空き巣に入られないための防衛策、ちょっとした工夫～

侵入盗の手口の約６割が空き巣！

ちょっとした工夫で空き巣の目をかわす。住居に侵入する泥棒の中で一番多いのが「空き巣」です（図表１）。空き巣は、侵入しやすい家をいつも探しています。家の回りの状況を入念にチェックして、人目につかず侵入できる準備を周到に整えているのです。空き巣が下見の際にいちばん気をつけて見るのも、家の人が留守かどうかだといわれています。郵便受けに新聞や手紙はたまってないか。網戸やカーテンは閉めきっていないか。日が暮れても玄関や室内の電灯が消えていないかなどをチェックしています。対策としては、旅行などで数日留守にする場合は、新聞を止めるか、隣人に頼んで、取っておいてもらいましょう。また帰りが遅くなるときは、消費電力の少ないキッチンなどの電灯をつけて外出するといいでしょう。次に、入りやすい家かどうかのチェックには、死角となるものや足場となるものがあるかないかなどがあげられます。対策としては、プライバシーの問題もありますが、ブロック壁や植木を低くして、見通しをよくしましょう。さらに家の周りに足場となるようなものは放置しないようにしましょう。

広報情報委員会　三上　享一



図表１　侵入盗の手口別発生状況
（平成15年度　警視庁）

www.machida-jc.com/2007
発行所 社団法人町田青年会議所 編集 広報情報委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067

「3・4月の事業案内」

3月講演テーマ

「本当の親子の愛情とは。～親が変われば子供も変わる～」

TVでおなじみ 講師：長田百合子さん

いじめや不登校、非行、引きこもり等で悩む家庭に自ら出向き、問題を解決してきた長田先生に、熱いメッセージをいただきます。

日時：3月29日(木)　講演開始：18:30

場所：町田市民フォーラム ホール

定員：188名　参加費：無料

日本教育再興連盟 共催　4月講演テーマ

「親子の絆で学力向上」

百マス計算で有名！ 講師：陰山英男さん

「百マス計算」で有名な陰山英男先生をお招きして『生活習慣の大切さ』と『学力向上』について、お話をしていただきます。

撮影：藤谷清美

日時：4月12日(木)　講演開始：18:30

場所：町田市民ホール 大ホール　手話通訳あり

定員：853名　参加費：無料

主　催　：社団法人町田青年会議所
後　援　：町田市教育委員会
4月講演共催：日本教育再興連盟
協　力　：町田市内公立小学校

ローカルマニュフェスト勉強会

「第１回 ２月度勉強会」

２月15日 第１回２月度勉強会「**ローカルマニュフェスト**とは」と題して相澤弥一郎君(2006年日本ＪＣ国民主権確立特別委員会　委員長)によりご講演いただき会場は満員席となり、活気溢れる勉強会となりました。

「第２回 ４月度勉強会」

「**ローカルマニュフェスト**の検証とは」

日時：2007年４月19日（木）
19：30（19：00開場）

場所：町田市民ホール
第３会議室

講師：慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究
教授
21世紀臨調　主査
曽根　泰教 氏

「新入会員の声」 ～町田ＪＣと出会って～

市民主権創造委員会　委員長　重南　裕子

2006年の手帳が役目を終え、ひっそりとデスクの上に佇んでいます。ページをめくると・・・一年間の日々が目に浮かんできます。抱負に「ＪＣ入会により、地域社会に貢献」と書いた年頭。シニアの勧めでＪＣの門を叩き、メンバーのスピーチを初めて聞いた日。会場を見渡し、未来を見据え、堂々と話す姿・・・そして、ひとの心を打つ表現。ここには学ぶべきものがある！と入会を決意し、私のＪＣライフがスタートいたしました。何よりも驚かされたのは、まちづくりに対するメンバーの真剣な眼差しです。仕事を調整し時間を作り、深夜まで議論を深め合う。さらに新たなことに挑戦し、取り組む姿勢。「修練」「奉仕」「友情」・・・この三つはありきたりな言葉に映るかもしれませんが、常に心がけていないと流されていってしまいます。それを実践している青年達が町田の地にいたことが嬉しく、このメンバーと共に活動していくことは、我がまちに、自分の人生に、大きな実りをもたらすものだと感じました。そして、気がついたときには運動の輪の中にいる自分をみつけました。「町田市市長選挙公開討論会」「わんぱく相撲町田場所・ふれあいフェスタ」「わんぱく相撲都大会・全国大会」「市民討議会（模擬）」など、初年度の委員会では多岐多様な事業を行い、まちを、社会のあり方を考える年となりました。目先の利害に捉われて混乱する現代社会。ひとをつくる土壌＝社会。土壌をよくしていき、根っこから美しい実がなるよう育てていかなくてはなりません。「今、自分に出来ることは何か」「明るい豊かな社会とは何か」など、真剣に考えるようになったのは、ＪＣとの出会いがあったからです。生き方が少しずつ変わってきていることを実感しています。何事も本気で取り組めば楽しくなってくるものです。長い人生の中で、充実した一年間を過ごせたことに幸せを感じつつ・・・2007年の手帳が埋まる頃には、また新しい自分に出会えるのでは、と期待しつつ・・・周りのひとにもそれぞれの新しい自分、秘めた可能性が見つかりますように…。卒業の日まで後２年。まだまだ、仲間とともに成長していきたと思っております。

「入会者募集」

(社)町田青年会議所では現在会員を募集しております。町田市及びその周辺地域に住所または勤務先を有する20歳から40歳までのまちづくりや奉仕活動、自己の修練に興味のある青年であれば、男女を問わず入会の資格があります。
詳細は事務局へお電話もしくはメールにてお問合わせください。

（社）町田青年会議所事務局　TEL042-725-7565　E-mail:machida.jc@msh.biglobe.ne.jp

www.machida-jc.com/2007

発行所 社団法人町田青年会議所 編集 広報情報委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067